

受信距離：最大 100m

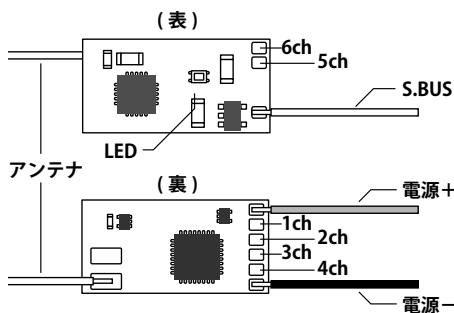
Micro receiver material

2.4GHz T-FHSS Air-mono 方式 S.BUS+6ch

R3206SBM

この製品は微細なはんだ付け配線、収縮チューブの取付作業が必要です。

●この R3206SBM は Futaba 製 2.4GHz T-FHSS システムの送信機に対応します。(テレメトリー機能は使用できません。)



S.BUS を使用する場合は R3206SBM の S.BUS 配線に S.BUS 機器の S.BUS ラインをはんだ付けします。PWM を使用する場合は信号線を基板の 1～6ch に直接はんだ付けて使用します。また、各機器に電源配線をはんだ付けします。(裏図参照)

この度は 2.4GHz T-FHSS Air-mono 方式 S.BUS+6 チャンネル受信機 R3206SBM をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この受信機はパークフライ/インドア機/小型電動機用として設計されています。

[R3206SBM 受信機仕様]

T-FHSS Air-2.4GHz 方式

(テレメトリー非対応)

S.BUS + 6 チャンネル

・電源電圧範囲 (定格) : 3.2 ~ 8.4V

・サイズ/重量 :

20.0x10.0x3.0mm / 1g 以下

・バッテリー F/S 電圧 : 送信機から設定

受信機 LED 表示

緑色	赤色	状態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
点滅	消灯	受信信号の ID が不一致
交互点滅		受信機内部の異常 (メモリー等) 電源再投入で回復できない場合は弊社カスタマーサービスへ点検・修理依頼してください。

■双葉電子工業 (株)
ラジコンカスタマーサービス

〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080
TEL.(0475)32-4395

使用上の注意

この受信機はパークフライ/インドア機/小型電動機用として設計されています。下記の注意事項を必ずお守りください。また、使用する送信機の取扱説明書もあわせてお読みください。

- ① 最大飛行範囲 (100 m) を超えて飛行しないでください。
- ② 送信機と受信機を近づけすぎないようにしてください。30cm 以内に近づけると正常動作しなくなる場合があります。
- ③ この受信機は使用する端子にはんだ付けをして使用します。電源を入れる前に十分に接続を確認してください。
- ④ 熱収縮チューブを取付ける際には基板がむき出しにならないように注意してください。静電気などにより墜落する危険性があります。
- ⑤ Futaba T-FHSS Air mono システムは Futaba S-FHSS/FASST/FASSTest システムの送受信機との組み合わせでは動作しません。T-FHSS Air システムの送受信機の組み合わせでご使用ください。
- ⑥ T-FHSS Air システムと地上用の T-FHSS システムは異なります。R3206SBM は T7PX, T7XC, T4PX, T4PV, T3PV などの地上用 T-FHSS 送信機は使用できません。
- ⑦ 本製品ははんだ付けやドライバー使用の作業が必要です。はんだ付け不良やショートに注意し、また高温のよるやけどや火災にも十分ご注意ください。

リンク操作

ご使用前に送信機の ID コードを受信機に読み込ませる操作 (リンク操作) を行う必要があります。一度リンク操作が行われると、その ID コードは受信機に記憶され、別の送信機を使用するまでは再リンク操作の必要はありません。T-FHSS Air-2.4GHz のリンク方法は、従来システムから使いやすさを向上した、リンクボタンを使用せずにリンクが出来るシステムです。

- 1 送信機と受信機を 0.5 m ~ 1m に近づけてください。[* 30cm 以内に近づけない。]
- 2 送信機をリンクモードにします。
- 3 すぐに受信機の電源を ON します。受信機電源 ON から約 3 秒後に受信機はリンク待ち状態 (赤点滅) になります。
- 4 送信機のリンクモードが終了し、LED が赤色から緑点灯に変化すれば、リンク完了です。(送信機のリンクモードが終了するまでは緑点灯になりません。)
[送信機は「リンクできません」と表示されますが LED が緑点灯すれば OK です。]
- 5 動作を確認してください。リンクしていなければ再度お試しください。

※リンク操作時に、周囲で他の T-FHSS Air-2.4GHz システムが使用されている場合、それらの送信機の中の 1 台とリンクしてしまう場合があります。このためリンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。

※送信機をリンクモードにする方法についてはご使用の送信機の取扱説明書をご覧ください。

※T-FHSS Air のテレメトリー機能付き送信機とリンクする場合、送信機に ID は表示されません。(No LINK) や以前の受信機の ID がそのまま表示されます。緑点灯になればそのまま使用できます。(テレメトリー機能は使用できません。)

※リンク完了後、送信機と受信機が近すぎると (30cm 以内) リンクエラーで緑点灯にならない場合があります。その場合、そのまま送受信機の距離を離してください。緑表示になり正常に使用できます。

⚠ 警告

- ① リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。
■不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がったりと大変危険です。
- ② リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を入れ直し、リンクした送信機で操作ができることを確認する。
- ③ リンク完了後は必ず送信機から電源を入れる。

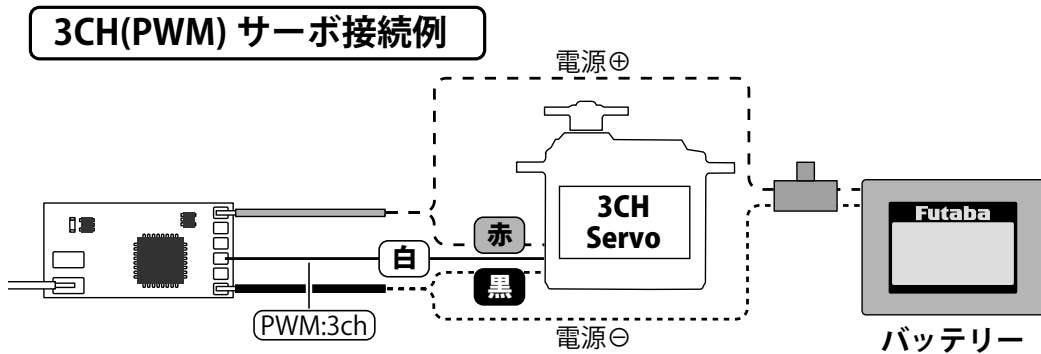
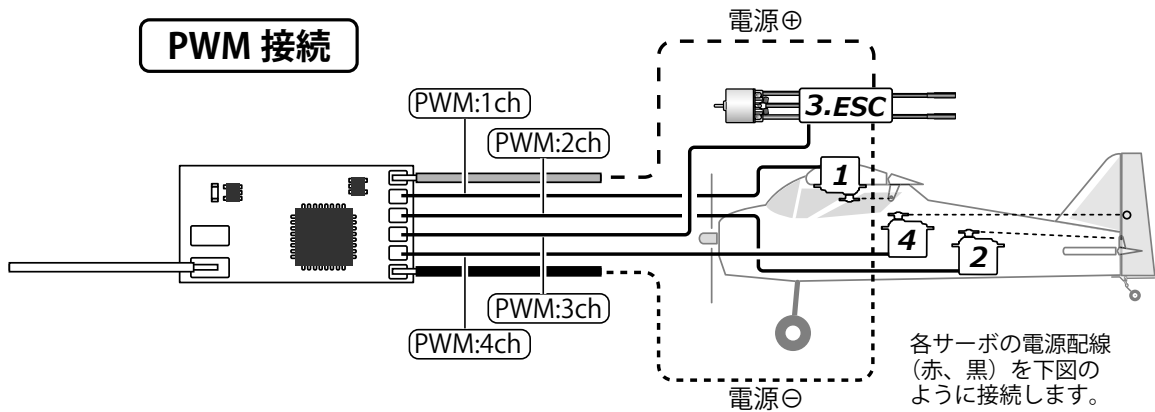
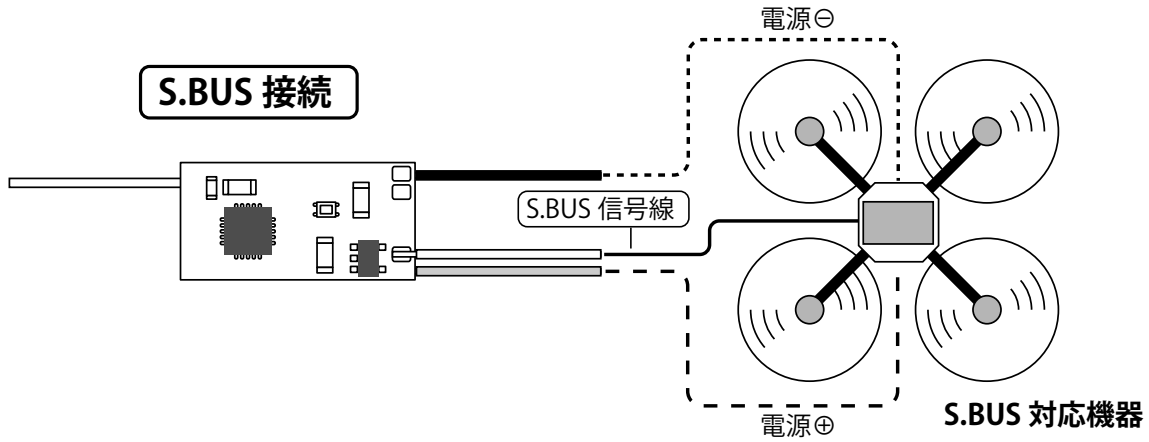
S.BUS システムについて

S.BUS システムでは従来のラジコンシステムとは異なり、操作信号は受信機からサーボやジャイロなどの S.BUS 対応機器へデータ通信により送信されます。このデータには「チャンネル 3 のサーボが 15 度に、チャンネル 5 のサーボは 30 度に」といったように複数の機器への指示がまとめて含まれており、S.BUS 対応機器はその中から自分に設定されたチャンネルの部分のみを実行します。このため、サーボ等の複数の S.BUS 対応機器を同じ信号線に接続して使用することができます。

⚠ 警告

- ① 必ず送信機の電源を ON してから受信機の電源を ON して、操作できることを確認してからご使用ください。

接続例

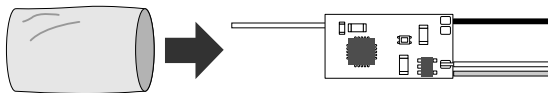


警告

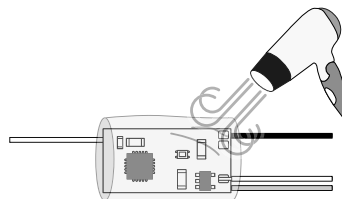
- ① 配線は確実にはんだ付けして絶縁チューブをかぶせてショートしないようにしてください。

熱収縮チューブの取付

配線完了後に付属の熱収縮チューブをかぶせて



ドライヤーで収縮させます。



警告

- ① 熱収縮チューブは収縮させすぎないようにしてください。

